

# 富士山静岡空港脱炭素化推進計画【概要版】

## 1. 基本的な事項

### ■ 空港の特徴

- 富士山静岡空港は、牧之原台地から大井川に沿って東西に伸びる丘陵地に立地している。空港用地は大規模な盛土で造成されており、空港の用地の南北に広大な法面を有している。
- 2019年度の乗降客数は752,554人（国内線476,821人、国際線275,733人）、1,030トン（国内線413トン、国際線617トン）、着陸回数は5,718回（国内線4,445回、国際線1,273回）である。

### ■ 空港脱炭素化に向けた方針

- 空港関係事業者が一体となって旅客ターミナルビル、庁舎等において、高効率空調への更新、照明、灯火のLED化等の省エネのほか、再生可能エネルギーの導入などに取り組む。

## 2. 温室効果ガスの排出量

区分	温室効果ガス排出量	
	2013年度	現状(2019年度)
空港施設	1,768トン	2,047トン
空港車両	164トン	175トン
計	1,932トン	2,222トン
(参考) 航空機	1,545トン	2,417トン
(参考) 空港アクセス	1,857トン	2,925トン

## 3. 温室効果ガスの削減目標

2030年度目標	2013年度比 46.6%削減
2050年度目標	カーボンニュートラル

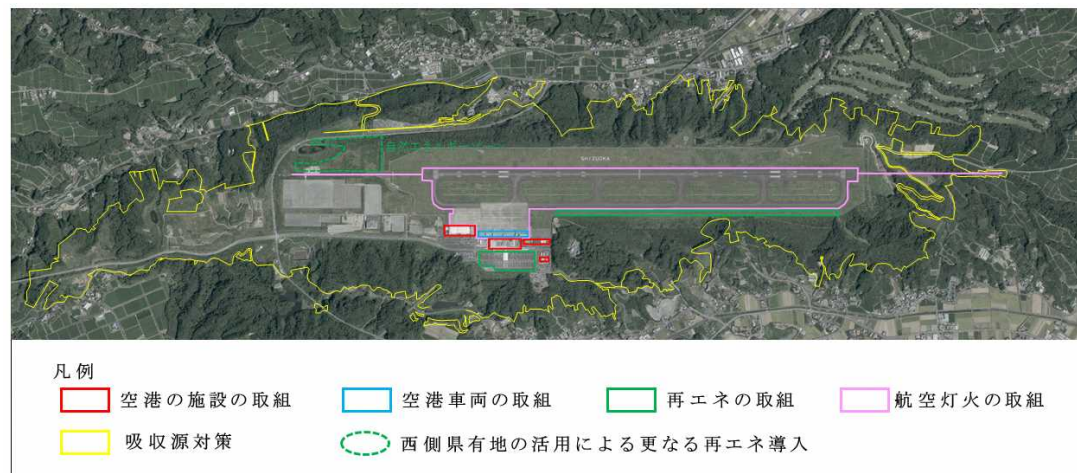
## 4. 主な取り組み

### ■ 2030年度

- ターミナルビル、庁舎等の日射抑制（遮熱フィルム・Low-Eガラス）、高効率熱源（モジュールチラー）への更新、照明のLED化等に取り組む。
- 航空灯火のLED化に取り組む。
- 空港南側用地、駐車場への太陽光発電設備の導入に取り組む。
- 空港車両の更新時期に合わせEV化に取り組む。

### ■ 2050年度

- 太陽光発電設備の拡充及び蓄電池の導入を検討し、空港全体のカーボンニュートラルを目指す。



### その他の取組

- 周囲部の林地において、下刈り、除伐、間伐（間伐材の利活用）、高齢樹木の再造林等の適正な整備に取り組むことにより、CO2排出量の削減を図る。
- 調節池等の維持工事において、再生砕石や再生アスファルト合材等の再生土木資材を積極的な活用、ICT施工の実施に取り組む。